



平成 29 年 2 月 24 日

報道解禁：平成 29 年 2 月 28 日（火）午後 8 時（新聞は 3 月 1 日朝刊より）

“子どもの「読書離れ」解決の鍵はぬいぐるみ！？”

読書活動を推進するための人気イベント

「ぬいぐるみお泊まり会」の効果を実証

子どもの読書活動の自発性を促す役割期待

子どもたちの「読書離れ」の一因として、幼児期からの読書習慣の未形成などが指摘されています。そのため、幼児期に読書に興味を持ってもらうためのさまざまな取り組みが行われており、その一つとして「ぬいぐるみお泊まり会」（以下、お泊まり会）が国内外で人気を得ています。

岡山大学大学院教育学研究科の岡崎善弘講師の共同研究グループ（金沢大学の浅川淳司准教授、大阪工業大学の石井健太郎講師、九州大学の山田祐樹准教授）は、お泊まり会前後における子どもの読書活動を調査。お泊まり会が、参加した子どもの読書活動を促進させることを明らかにしました。本研究成果は 2 月 28 日（英国時間：28 日午前 11 時）、オランダ ELSEVIER 社の科学雑誌「*Heliyon*」に掲載されます。

2006 年頃からアメリカで始まったお泊まり会は、子どもたちのお気に入りのぬいぐるみを図書館などに一晩“宿泊させ”、ぬいぐるみが図書館で絵本を読んでいる場面を撮影。その写真を見た子どもたちに図書館や絵本を身近に感じてもらう企画です。読書意欲を向上させるイベントとして人気を呼んでいます、その教育効果については分かっていませんでした。

本研究は、お泊まり会の効果を実証するとともに、効果が続く期間は 3 日程度であることや、その後に効果を維持させる方法も発見しました。本研究成果は、お泊まり会が子どもの読書活動を促進させることを示しただけでなく、子どもの空想傾向を理解する新しい切り口として期待されます。

<背景>

お泊まり会は、アメリカの公共図書館で 2006 年頃から始まったといわれています。これは、子どもたちからお気に入りのぬいぐるみを一晩預かり、図書館でぬいぐるみが絵本を読んだり他のぬいぐるみたちと一緒に遊んだりしている場面を撮影（写真 1）。翌日以降、ぬいぐるみを迎えに来た子どもに写真と絵本が手渡され、“ぬいぐるみが絵本を読んでいた”と伝えられることで、子どもたちが絵本や図書館を身近に感じるようになるというものです。

日本では、2010 年頃から各地の図書館で行われるようになり人気を呼んでいる企画ですが、お泊まり会が実際に子どもたちの読書活動の向上に貢献しているかは検証されておらず、効果は明らかになっていませんでした。



PRESS RELEASE

<業績>

本学大学院教育学研究科の岡崎講師の共同研究グループは、お泊まり会の効果を科学的に検証しました。

実験は、3～5歳の幼稚園児42人を対象に実施。お泊まり会前後で子どもの読書活動が変化するか調べました。お泊まり会前は、ぬいぐるみに対して絵本の読み聞かせをする子どもは2人しかいませんでしたが、ぬいぐるみを子どもたちに返した当日は、21人の子どもがぬいぐるみに読み聞かせを行っており、能動的な読書活動が増えていることが分かります（図1・写真2）。

一方で、お泊まり会后3日経つと、読み聞かせをする子どもの数が4人に減っていることから、効果が続く期間は3日程度と短いことも明らかになりました。しかし、お泊まり会から1カ月後、子どもたちにお泊まり会のエピソードを思い出させると、その前後で読み聞かせをする子どもの数が再び増加しています（図2）。

以上より、お泊まり会に参加した子どもの顕著な行動変化として、ぬいぐるみに絵本を読み聞かせるようになり、能動的な読書活動が増加すること、さらに、読み聞かせる期間は3日程度と比較的短いことが判明しました。また、たとえ効果が消失しても、お泊まり会のエピソードを思い出させることで再び効果を継続できることも明らかになりました。

<見込まれる成果>

お泊まり会は、子どもにもっと絵本に興味を持ってもらうことを目的に開催されています。幼児期は大人に絵本を読んでもらうことが多いですが、小学校に上がると子どもは自発的に読書することを求められます。そのとき、それまで大人に絵本を読んでもらう受動的な読書体験しか経験していなかった子どもは、急に能動的な読書活動を求められ難しさを感じる傾向にあります。

お泊まり会に参加した子どもは、ぬいぐるみに読み聞かせをするようになるため、受動的な読書体験から能動的・自発的な読書活動へと移行します。したがってお泊まり会には、子どもの読書活動の自発性を転換するための橋渡しの役割が期待できます。お泊まり会の効果の持続期間は3日程度と短いですが、お泊まり会のエピソードを思い出させる語りかけをするだけで再び読み聞かせ行動が再開され、より長く効果を持続させられます。

以上から、幼児期にお泊まり会を体験させ、その後も効果的にエピソードを思い出させることで幼児期の読書活動を活発化し、子どもの読書離れ解決の一助となることが期待されます。



写真 1.ぬいぐるみが絵本を読んでいる場面



写真 2. お泊まり会に参加したぬいぐるみに、絵本を読み聞かせる子ども

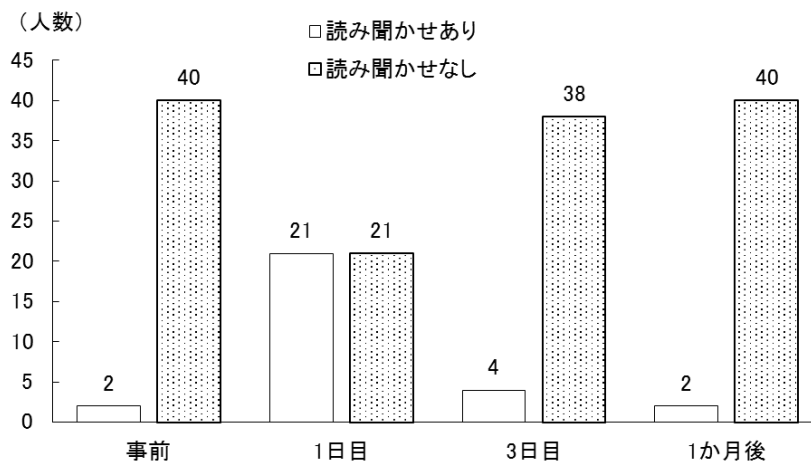


図 1.ぬいぐるみへの読み聞かせをした子どもの人数をお泊まり会前後に比較したもの

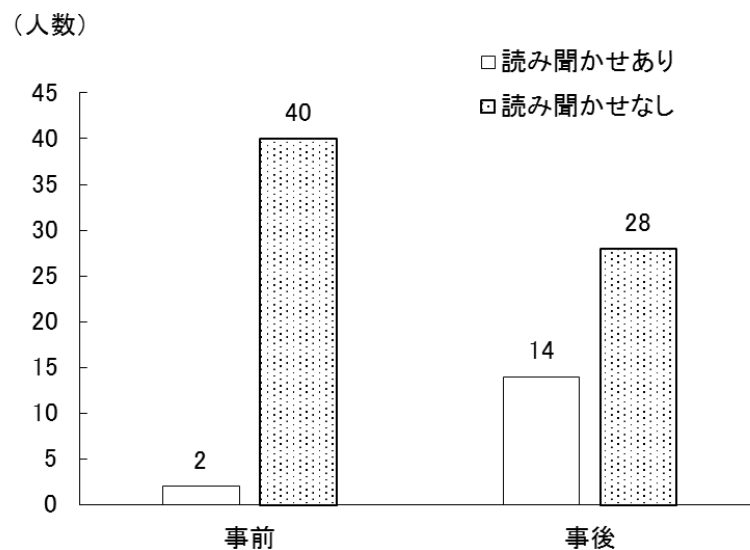


図 2.お泊まり会の1ヵ月後、お泊まり会を思い出させる語りかけを行う前後にぬいぐるみへの読み聞かせをした子どもの人数を比較したもの



PRESS RELEASE

<論文情報等>

論文名：The stuffed animal sleepover: enhancement of reading and the duration of the effect

掲載誌：Heliyon

DOI：10.1016/j.heliyon.2017.e00252

著者：Yoshihiro Okazaki, Atsushi Asakawa, Kentaro Ishii, Yuki Yamada

<お問い合わせ>

岡山大学大学院教育学研究科

講師 岡崎 善弘

(電話番号) 086-251-7713

<参考>

岡崎研究室（教育心理学講座）は3月4、5、11、12日の4日間、岡山県内の子どもたちを対象に、読書意欲の向上を目的としたイベント「ぬいぐるみたちの夜の探検 2017」を紀伊國屋書店クレド岡山店で開催します。

本企画は、今年で3回目となる人気イベント。岡崎研究室が子どもたちのお気に入りのぬいぐるみを預かり、夜の書店で遊んでいるような写真を撮影したり、書店内にぬいぐるみを隠したりするなど事前に準備を行います。参加する子どもたちが、書店で遊んでいるぬいぐるみの写真を見たり、大学生と一緒にぬいぐるみを探したりする取り組みを通じて、書店や絵本に親しみをもち、自発的な読書活動へとつながっていくことが期待されます。

名称：ぬいぐるみたちの夜の探検 2017

日時：平成29年3月4日（土）10：30～11：30、13：00～14：00

5日（日）10：30～11：30、13：00～14：00

11日（土）10：30～11：30、13：00～14：00

12日（日）10：30～11：30、13：00～14：00

場所：紀伊國屋書店クレド岡山店

（岡山市北区中山下1-8-45 NTTクレド岡山ビル5F）

対象：幼児 3歳以上～6歳以下 定員各10人／各回（参加無料）

【参加者の申込みはすでに終了しています】

※期間中、取材を希望される場合は、上記連絡先まで事前にご連絡ください。